



ALHΘEIA

豊橋技術科学大学附属図書館報

世界一のベストセラー“聖書”／亀頭直樹	1
日本人の心／伊藤高啓	2
峠／堀畑 聡	2
糞尿博士・世界漫遊記／大久保陽子	3
胃袋を買いに。／鈴木崇之	3
ミタカくんと私／白井律子	4
NACIS-ILLシステム講習会に参加して／美野部亜紀	5
著作権実務講習会に参加して／前田勝典	6
オープンキャンパスを終えて	7
Information	9
図書館の利用状況	11
TUT-L NEWS	12

特集 私の推薦する図書

世界一のベストセラー“聖書”

亀頭直樹

アメリカのとある街で12月24日の夜に教会のハシゴをしたことがある。クリスチャンでもないのに好奇心からであった。

二つ目に入ったのがプロテスタント系の教会で、簡素な祭壇での牧師の説教の後、オルガンの伴奏でソプラノの“Stille Nacht, heilige Nacht・・・”を聞いてその見事さに感動したことがある。歌詞と音韻とが完全に調和していた。これが“きよしこの夜・・・”ではチグハグだし、“Silent night・・・”でももうひとつビツリ来ない。やはり元祖に返ってこそその本性（美しさ）が引き出せる。

ベートーベンの第九は“Alle Menschen werden Brüder・・・”であり、これを“人類みな兄弟・・・”と歌っては歌詞の意味は分かるが、合唱としては台無しであろう。原典に当る重要性はこのようにいたるところで出会う。

我々自然科学を学ぶ者は常に原著論文を読まねばならない。若者の活字離れが叫ばれているが、我々だって分厚い本を隅から隅まで目を通しているわけではない。まさに必要箇所のみ読んであるだけである。

最近研究室で輪講をするにも和訳本の無い本を探すのに苦勞する。新刊ならよいが読み終えるまで良い本かどうか分からないのでつい躊躇する。結局は原著論文を読んでそれに関する参考書を各自が読んで学ぶしか仕方ないだろう。学生時代にフィンランドの女子学生とドイツ語で文通をしていたが、その内容はお互いの

国のおとぎ話を紹介しあうものであった。こちらのつたないドイツ語がどれほど通じたかはともかく、先方の西洋人の心の奥にあるキリスト教的な考え方を理解しようと聖書を読み始めた。

当時日本の聖書は“汝・・・するなかれ”で書かれていて如何にも取っ付き難いし、英語版の聖書も同様に硬い文体であったが、ドイツ語版はさすがルターの影響からか、日常（ドイツ語の授業などで）出会う文体で書かれていて親しみやすかった。聖書の良い点ははじめからずっとストーリーを追わなくとも、ある日あるときにパッと開いた頁を読めばそれだけでひとつのストーリーになっている点である。そのパッと開いたページが偶々ヨハネ伝なら“Vor Ur an war das Wort・・・”（はじめに言葉ありき・・・）が出てきて辞書を引き引き一節は読める。

新約聖書はもともとラテン語で書かれていたであろうし、旧約聖書はヘブライ語であろうか。従ってこれらの言語で読めばさらに一層真髄に触れるのであろうか？神というものの存在を認めるならば、我々の生き様を支配している神のプログラムとはどのようなものであろうか？好奇心からのみでもよい。今は良く分かる訳本がでているので読むのに苦勞はない。世界的なベストセラーである聖書にはなかなか良いことが沢山書いてあり読みだしたら面白いものである。

(附属図書館長)

日本人の心 (河合隼雄 編)

伊藤 高啓

日本人にとって宗教というのは、生活そのものである(そのものであった、というべきかもしれない)。もともと資源の貧しい国として、簡素を美とした上に成り立つ倫理や宗教を発達させて来たわけであるが、今日の急激な物質文明の流入や科学の発達に伴ってその観念が崩れつつあることが言われるようになって久しい。そうした中では、自己を知る、己の心を知ることが重要になってくる。その際には科学だけではなく、宗教、文化、文学など様々な要因が関わってくる。

愛する人が他界したとき、科学は人が「出血多量」で死亡したことは説明できるが、どうして「私の」愛する人が亡くなったのかは説明できない。これを説明するのがたとえば宗教である。宗教は「私」との関わり(つまり「個」)を論ずる立場にある一方、科学はその普遍的・客観的論理を特長とする。普遍的であることは、それを分かちうる人たちが多くいるという事実によって人々に安心感を与え、ますます多くの人に受け入れられ、その結果として昨今の急激な発展を見

せた。また、特に近年、科学はものを知るだけでなく、その利便性、効率を追求するための「手段」としてとらえられることも多くなった。

そのような中においては、客観的に自分の周りのことを説明する科学の届きうる範囲を理解し、それと同時に、科学だけでは説明しがたいもの=「私」「自己」に対する探求の両方を進めてゆくことの重要性がますます増してくるであろう。

こんなことが書いてあるのが「日本人の心」(河合隼雄編、潮出版社)である。様々な分野の著名人と河合の対談部分がほとんどであるが、河合独特の極めて読みやすい構成で書かれている。手段としての科学も重要であるが、客観的であるにせよ世の中を理解する手段のひとつとしての科学の発展という位置づけをも改めて認識させられる点からも、かめばかむほど味のする書と思う。

(機械システム工学系 助手)

峠 (司馬遼太郎 著)

堀 畑 聡

私は「竜馬がゆく」や「国盗り物語」などで人気の高い司馬遼太郎の作品を好んで読んできた。その中で一番印象に残った作品は知人に紹介された「峠」である。これは、長岡藩の家老河井継之助の一生を描いたものである。幕末の有名な坂本竜馬や勝海舟、西郷隆盛といった名前が浮かぶが実は河井継之助はその人たちに匹敵する人物であることがこの小説でわかる。河井継之助が一般には知られていない理由は日本国よりも長岡藩のために智力を尽くした人物であったことが原因であると思われる。しかし、ものの考え方や発想は幕末の有名な人の中でも群を抜いている。

長岡藩の藩士である継之助は江戸で歴史や世界の情勢、西欧の近代思想などの知識を得ることで、ものごとの原理を自分のものにする。また、旅に出て諸藩の状況を実際に見ることで良いところを学び、藩の経済の建て直しやこれからの藩のとるべき方向性を模索する。この柔軟な考え方により、一藩士から実力で家老の職に就く。そして、官軍が進行する中、家老として

彼のとった態度は中立の立場、すなわち官軍にも幕府軍にも参加しない立場である。あわよくば、自分が育てた藩の強力な武力を楯に官軍と幕府軍の調停役になることで長岡藩を守ろうとした。結果的には官軍の攻撃により、維新で最も壮烈な北越戦争となり、継之助の思いは断たれた。彼は封建制度が崩壊することを誰よりも明確に見通していたが、侍として武士道を貫く生き方を選択し、長岡藩と共に散った。継之助の判断が正しかったかどうかは賛否両論ではあるが最後の侍に値する生き様であったことは確かである。

この作品が強く印象に残った理由は継之助に義理や理想、男気などを感じ、滅びの美学がそこに存在すると思ったからである。この本により、坂本竜馬や西郷隆盛などとは異なる英傑の一生を垣間見ることができるので、仕事や研究に疲れたときに気分転換として気軽に読むことをお勧めする。

(生産システム工学系 講師)

糞尿博士・世界漫遊記 (中村 浩 著)

大久保 陽子

今から数十年前。読書好きの私は、いつも受験勉強の息抜きと称しては、父の書棚から面白そうな本を探しては読み漁っていた。「糞尿博士・世界漫遊記」もそうした本の一冊である。以来この本は私の愛読書となった。

著者である中村博士は、日本で公害問題が社会的な大問題としてクローズアップされ始めた頃、それまでキタナラシイものとししか考えられていなかった糞尿が、じつは貴重な資源であると考えた。博士によれば、博士の三十年の努力により、悪臭を発する山吹色のクソを無臭の白い粉末にし、黄色く泡立つショウベンを透明な飲料水に変ずる実験に成功する。しかし、当時は糞尿科学が学問として考えられておらず、「こんなことを自慢しても、ほめてくれる人はめったにいなかった」と博士は嘆く。それでも博士は諦めなかった。アメリカやイギリスなど世界各国を旅行し、研究者らと交流を深め、糞尿の有効利用や微生物食物開発の重要性を説き続けたのである。博士の没後二十年が経ち、

今や糞尿科学は至るところで利用されるようになった。尿素やアンモニアを含む糞尿が農作物の有効な肥料として再評価され始めているだけでなく、その発酵の際に微生物によって生成される熱を利用してごみ処理を行う施設なども稼働している。

この本を読んで思うことは、「捨てる神あれば拾う神あり」的発想の大切さである。何ごとにもまったく無駄であるということはなく、ちょっと見方を変えるだけで、そこから何かが見えてくるかもしれない。ごみの山を宝の山に変えるのは、自分次第なのである。私のようによく研究に行き詰まったり、他人から「あなたって何か変なことに興味があるのね」と言われやすい人には是非、この本を推薦したいと思う。この本を読めば、一見無駄に思われることでも諦めずに続けることの大切さを実感できるはずである。ただし、残念ながらこの名著「糞尿博士・世界漫遊記」は絶版となっているので、入手困難である。悪しからず。

(環境・生命工学専攻 博士1年)

胃袋を買いに。(椎名 誠 著)

鈴木 崇之

私は最近まで「勉強・研究が忙しい」ことをいいわけとして新聞や本をあまり読んでこなかった人間である。それが原因であるかどうかはわからないが、自分は一般常識・文章構成力に欠け、さらには自分の意志を正確に相手に伝える能力が乏しいと感じている。そのため現在は時間を作り、新聞や本を読むことにしている。しかし、小説の場合1冊読むのに2・3時間かかる。私のように2日に分けて本を読むのが嫌いな方もいるかと思う。そこでオススメしたいのが、短編集である。文庫本一冊に10話ほど収録されており、1話あたり15分程度で読み終えることができるため、待ち時間や研究の合間のちょっとした息抜きにも読むことができる。

ここで、私が最近読んだ椎名誠の短編集「胃袋を買いに。」を紹介する。この短編集は大きく2つのタイプに分けられる。一つは、世界観がわかりやすく先の展開を自分で予想するタイプ、もう一つは世界観が複雑で会話や主人公の行動から世界観を推測していくタイプである。後者は、私自身初めて読んだタイプの小

説であり正直とまどうこともあったが、短編ならではの面白味があった。

全11話の内の一つであり、この短編集のタイトルにもなっている「胃袋を買いに。」は、お盆に先祖が帰るといふシステムができている近未来の時代設定の話である。死んだ母親が《盆戻り》をし、酒を飲み過ぎた主人公が二日酔いでするべ肉でできた胃をはき出してしまったため、新しい胃を買いに行っている間に娘がおばあちゃんと一緒にお風呂に入ってしまう、おばあちゃんが小さくなってねんどになってしまった、という一見何がなんだかかわからない話であるが、「もしこんな世界だったらどうするか」と「家族愛？」を交えてストーリーが展開されていく。その中でするべ肉、リンパ球屋、勤行招魂局など実にユニークな名詞が使用されるのもこの本を読む上での一つの楽しみである。皆さんも愉快で奇怪なシーナ・ワールドを楽しんでみてはいかがだろうか。

(情報工学専攻 修士1年)

ミタカくんと私 (銀色夏生 著)

白井律子

私がお薦めしたい本、好きな本は、銀色夏生さん著の「ミタカくんと私」という小説です。

主人公であるナミコ、ナミコの母親と弟のミサオ、そして近所に住んでいるのだけれど常にナミコの家に着いているミタカくんを中心に、ごはんを食べたり、テレビを見たり・・・という、なんとなく過ぎていき、これからも同じように続いていこう日々の暮らしについて描かれているお話です。

この小説自体、特別大きな事件や大きなテーマがあるというわけではないけれど、私（ナミコ）の視点から、全編を通して描かれている、なんとなくの毎日の生活の中での些細な出来事に対して感じたこと、思ったこと、考えていることが、映し出されています。

窓の外の木の葉の動きを眺めながら1時間位ぼんやりと物思いにふけりながら考えていること、家に帰っ

たときに漂っている夕食のニオイから感じた家族の温かさ、ふとした瞬間に口にした1粒のチョコレートをととてもおいしいと感じたり・・・。

一瞬一瞬の小さなことを幸せに感じたり、喜びと思えたりするような主人公の言葉を読んでいると、心に余裕を持たせた状態にしていることは素敵なことだと感じ、自分もそのように心を保ちたいと思いました。

これらの感情や動きを表している微妙なニュアンス表現に私はとても共感でき、これが銀色夏生さんの小説が好きな理由です。

著者は、小説だけでなく詩集も書かれています。これらの詩集も小説同様、やさしい気持ちになれる作品ばかりですので、興味のある方は、詩・小説共に、是非手にとってみてください。

(建設工学専攻 修士1年)



NACSIS-ILLシステム講習会に参加して

美野部 亜 紀

平成15年7月17日、18日の2日間、東京一ツ橋にある国立情報学研究所（NII）で実施された、NACSIS-ILLシステム講習会に参加しました。NACSIS-ILLは、図書館間で行われる文献複写または現物貸借の依頼・受付業務のうち、所在調査及び通信連絡に係る部分をネットワーク上で行うシステムで、NIIが管理・運営を行っています。

平成4年の当時の文部省学術情報センター（NACSIS）によるサービス開始時は、本学も含め参加館240でスタートしましたが、2002年度のNII統計によると、国内908の大学・短大・高専・学術機関が参加し、年間延べ1,043,529件の文献複写依頼と、87,133件の現物貸借依頼の実績をあげています。今回の講習の目的は、NACSIS-ILL参加館において文献複写業務に携わる職員を対象に、本システムの概要及び操作方法を習得させるというもので、内容は練習用データベースを利用したの実習が中心でした。

NACSIS-ILLの利点は、NACSIS-CAT（NIIが運営し、国内の1000余りの学術機関が共同作成している、全国規模のオンライン総合目録データベース）を利用することにより、該当する図書・雑誌の書誌とその所蔵館を一度に検索し、ネットワーク上で文献複写・現物貸借の依頼をすることができる点です。依頼館は、所蔵図書館の中から、依頼先として順を指定して5機関を選択でき、最初の受付館が何らかの理由で謝絶しても、依頼レコードは次の受付館へと順次転送される仕組みになっているため、必要な資料を迅速に提供できます。また、ILL参加館内で所蔵がなければ、外部機関である国立国会図書館やBritish Libraryに依頼が可能です。

どこに何があるか、という情報は、NACSIS-Webcat (<http://webcat.nii.ac.jp/>)として、インターネット上で一般に公開されていますので、利用者は事前に所蔵状況を調べることもできます。

現在では、依頼文献は早ければ3日程度で到着しますが、本システムの導入前は「学術雑誌総合目録」などの冊子体目録や電話による問合せなどで所蔵館を調べ、依頼内容を1件ずつ葉書にタイプして、郵送で依頼していたそうで、図書館に文献が送られてくるまで、3週間もかかったそうです。

問題点をあげるとすれば、書誌・所蔵の検索に参照するNACSIS-CATに未登録の資料がたくさんあるという点です。

NACSIS-CATの歴史は19年とまだ浅く、創立時から収集してきた膨大な蔵書を抱える図書館では、現在も書誌・所蔵データの遡及入力作業を行っている最中ですが、全国の大学でこの作業が終了するには、相当の年月が必要だといわれています。

最後に講習終了後の感想として、システムの操作自体は難しいものではありませんが、検索技術という点では、文献探索と図書館資料に関する知識や経験が必要だと思いました。実習で与えられる課題と違って、実際に利用者から来る申込書にはいろいろな書き方がしてありますし、情報が正確でないものもあります。難しいものについては、依頼者に確認をお願いしたり、文献データベースやインターネットで正確な文献情報を探す、書誌の検索方法を変えてみる、周りの人に聞く、他館に問合せするなど、あらゆる手段を使って調べますが、時間がかかりすぎて、長い間お待たせしてしまったり、最終的にどうしても見つからないこともあります。個人的には、この方面はまだまだだと日々痛感させられますが、同時に少しずつ進歩しているという喜びも感じます。

先輩方や利用者の方々に教えていただきながら、もっと早く確実に業務をこなすことができるよう、頑張りたいと思います。

（図書課学術情報係）

8月6日から8日の日程で、本年度の図書館等職員著作権実務講習会に参加させていただきました。著作権のお目付け役である文化庁の方の講義が中心ですが、質疑応答やちょっとした試験も最終日には組まれており、息が抜けない講習会となりました。参加されていた方々は大学関係者に限らず、公共図書館や小さな資料室に勤務する方まで、多種多様でした。それゆえ、問題意識の持ち方もさまざまで、質疑の内容もバラエティに富んでいたように思います。

・ 著作権とは

図書館の利用者の方々はどのような時に著作権を意識されるでしょうか?中には全く意識しないとか、著作権という言葉もあまり知らないという方もいらっしゃるかもしれません。著作権とは広辞苑によりますと、『著作者がその著作物を独占的に利用し得る権利。その種類は著作物の複製・上演・演奏・放送・口述・展示・翻訳、映画の上映などを含み、著作者の死後一定期間存続する。』とあります。つまり排他的独占権で、他人は許諾を得ない限りは原則として著作物を利用できないということになっています。資料のコピーなど論外というわけですが、なぜかこの大学の図書館には3台もコピー機があって、自由にコピーを許可しているようにも見えます。私費用コピー機の前に立つと分かりますが、『資料には著作権があります』という啓発ポスターがありまして、その中で、著作権法31条によれば(一定の制約のもとに)コピーは可能、という意味の説明書きがあります。31条については全文の記述はしませんが、コピー機のそばに『文献複写申込書』というのがありますのでそちらをご覧くださいと、下のほうに31条に準じた事項がいくつか記述されています。それらを遵守する限りは、(著作者に)無許諾でコピーできます、ということですので、決して無制限なのではありません。31条の存在により、著作者の方に少し我慢をしていただいているというのが実態です。

(ちなみに私的複製の関係は30条)

・ 古くて新しい著作権

このところの著作権は国会があるたびに改正され新しい条文が追加されているようです。今年の通常国会でも映画の著作物に対する著作権の強化、教育機関における著作物の活用促進、権利侵害に対する司法救済制度の充実がありました。こうしたこと背景には、情報・通信技術の発達による著作物利用手段の多様化があるのは言うまでもありません。新しい技術の普及への迅速な対応が、著作権の頻繁な改正および肥大化に拍車をかけていると言えるかもしれません。情報技術と著作権の関係ですと、ナップスターやファイル交換ソフトの事例は記憶に新しいことと思われま

す。これらの事例は、早い話が著作権(財産権)の侵害行為ということになります。侵害行為は犯罪ですので権利者による親告を前提として、「3年以下の懲役」または「300万円以下の罰金」という刑事罰の原則があります。これに加えて、民事上の損害賠償請求をされたりすると・・・ちょっと気が遠くなりそうです。たかが著作権、されど著作権でしょうか。

・ おわりに

上記のような話題の他に、毎度おなじみの複写物のFAX送信や公共で問題となっている公貸権(貸出も有料化?)などもありました。上にも書いていますが、著作権はかなり守備範囲が広くなり、かつ難しくなっています。ですが、利用者の皆様はとりあえず雑誌文献の複写に関わる上で、「文献複写申込書」(学外依頼用の『文献複写等申込書』ではありませんのでお間違えのないよう)をご記入いただいて、著作権をしっかり守っていただきたいと思います、というお願いをして終わりにしたいと思います。

(図書課情報サービス係)

オープンキャンパスを終えて

梅村 智文

大学のオープンキャンパスに合わせて図書館の一般開放を実施した。これは例年実施しているもので、今年は7月26日（土）の10時～16時の間、一般市民の方に自由に図書館に入館してもらった。

当日の入館者数は、261人であった。大学全体の来場者は587人で、約半数の方が入館してくれたこととなる。

一般市民の方の図書館利用は以前から実施しているが、高校生以下は利用できないので、これらの姿も目立った。企画としては、参加型のプログラムを下記の3件実施した。

また、併せて特別展示として次の2点を実施した。

☆ 本日のプログラム

その1 本を検索してみよう!

館内にあるパソコンを使って、課題図書を探します。

うまく探せるかな?

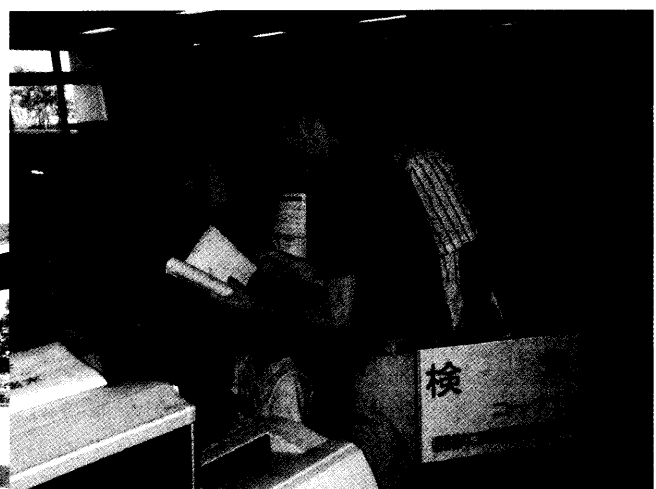
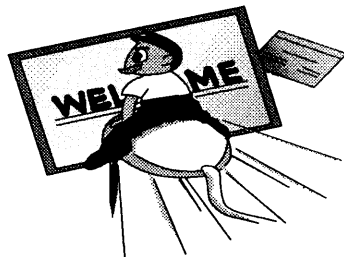
その2 図書館クイズに挑戦

これができればあなたも立派な図書館員?

その3 インターネット体験

館内の1、2階にあるパソコンコーナーを自由に使えます。

この機会に「夏休みの宿題」をインターネットを使って調べてみよう。



参加型プログラムの中でも好評だったのが「図書館クイズ」で、これは館内OPACの数、一年間の入館者数などの簡単な質問を、図書館概要などをヒントに答えてもらうもので、「技科大図書館」が地域の方に少しでも理解してもらえればと企画した。この企画の参加者は100名ほどで、入館者の約40%であった。

「図書の検索」は、OPAC、パソコンを利用し課題図書を館内から探してもらうもので、実際にキーボードに触れパソコンを操作し、何万冊もの図書の中からでも、一冊の本を容易に探すことができることを実感してもらった。

オープンキャンパス特別展示

1 貴重書展示

社会の教科書にも出てきた『解体新書』

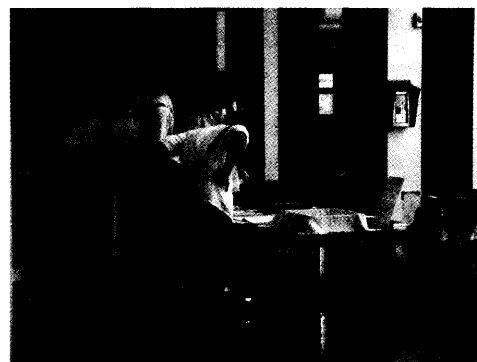
江戸の昔、杉田玄白らの訳した日本初の西洋解剖学書

2 『高師小僧』ってなんだろう？

天然記念物（愛知県）『高師小僧』の展示

地元天伯台地が生んだ『高師小僧』の実物を見てみよう。

また実際に触れてみよう。



次に特別展示では、「解体新書」と「高師小僧」を展示した。「解体新書」はだれもが一度は聞いたことがあるほど有名なものであるが、実物はどんな物か見る機会は少なく、当館には復刻版ながらあり、これを展示したものです。また、「高師小僧」とは枝状又は管状等をした褐鉄鉱のことで、この地域から産出する愛知県指定の天然記念物で、この大学の地下にも埋もれていると思われる物です。今回は、近隣にある小学校が、国道のバイパス工事現場で体験学習として掘り出した物を借用し展示した。これらは、科学に少しでも興味が湧いてもらえればと考え企画した。

オープンキャンパスの目的を図書館に限っていえば、来館された方々に日頃余り知られていない「技科大図書館」を、少しでも理解してもらうことにある。そのためは、来場者に来館を促す何かが必要にならず、単なる施設開放のみでは入館意欲をそそらない。来館者が自ら図書館の機能に触れ体験するような、参加型の企画を考えなければいけない。

オープンキャンパスは来年度も実施されるであろうから、来場者が次回もまた訪れたくなるような、図書館独自の企画を考える必要がある。次年度に向けて自らのアンテナを伸ばし新たな企画を考えていきたい。

(情報サービス係)

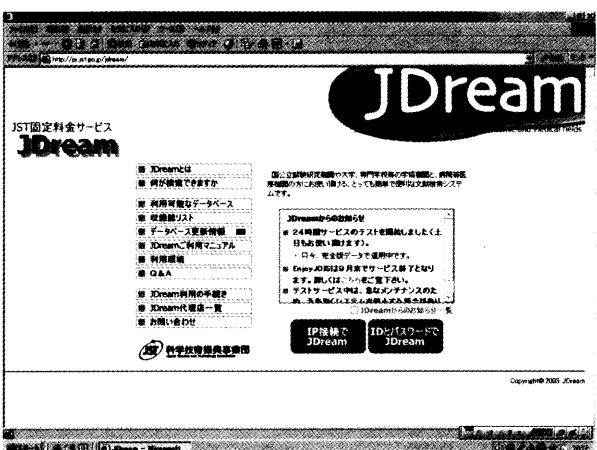
Information

JDream運用開始

10月1日から、JOISの新しい検索システム、JDream (ジェイドリーム) の正式運用が開始されました。これまでのEnjoy JOISにかわるもので、データベースの中身はそのまま、よりエンドユーザに使いやすいインターフェイスとなっています。是非ご利用ください。

1. JDream(URL http://pr.jst.go.jp/jdream/) にアクセス

図書館ホームページでは、2.のログイン画面へリンクが貼ってあります。

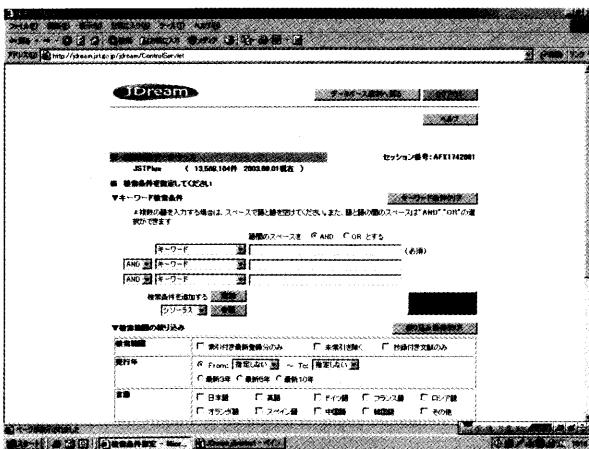
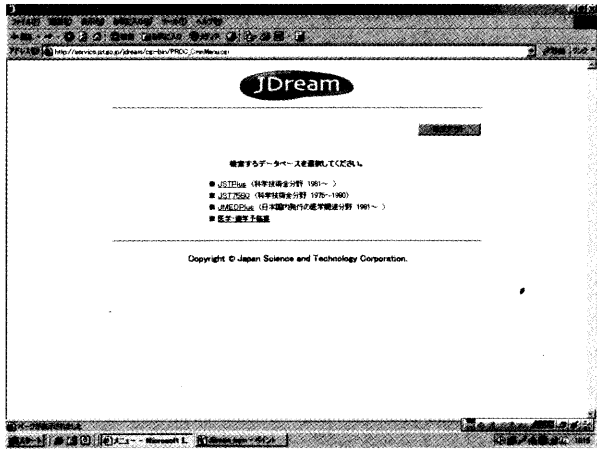


2. IP接続でログイン

「お名前」の欄に所属別コードを入力してください。所属別コードは図書館ホームページの文献情報検索のページにあります。

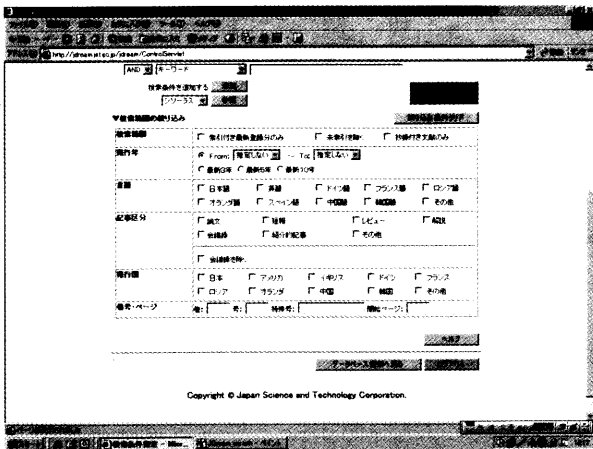
3. 検索したいデータベースを選択

現在利用できるデータベースは、JST Plus、JST7580、JMED Plus、医学・薬学予稿集の4種類です。



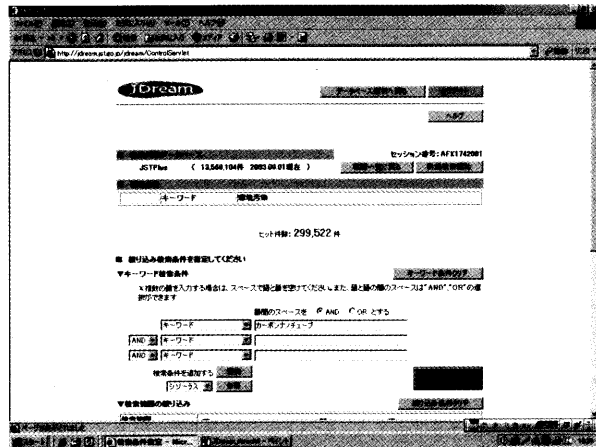
4. 検索画面

キーワード (和文抄録、シソーラスを含む)、和文標題、英文標題、機関名、資料名、会議名/回次/開催地は全文検索できるようになりました。



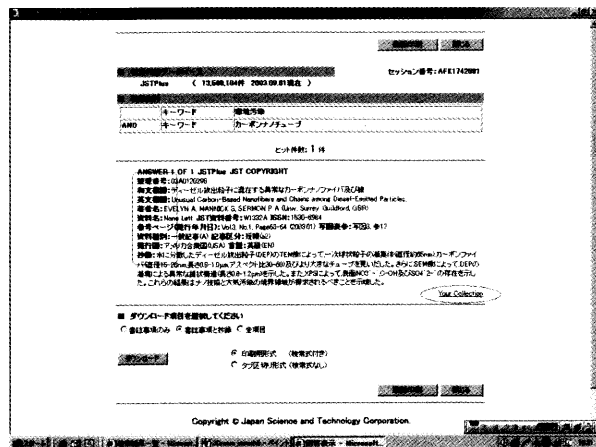
5. 検索例

キーワードで「環境汚染」と入力して検索すると、「件数が多すぎます。」というメッセージが出ます。この場合、別の検索条件を追加する、条件を変更するなどして、絞り込みをします。

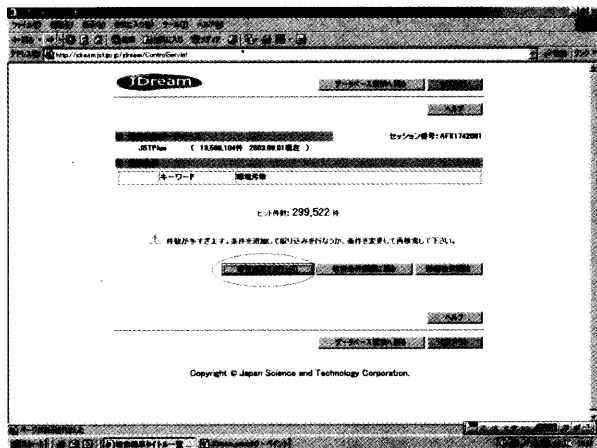


6. 詳細表示画面

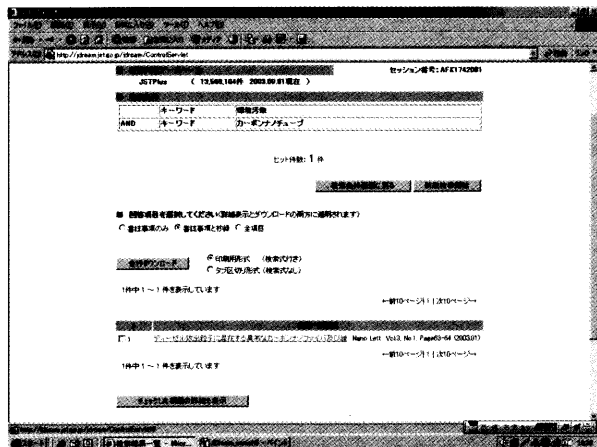
項目名の表示が日本語になりました。



また、特殊号（秋号、増刊号etc.）でも検索できます。
 検索範囲の絞り込みは選択式で、チェックをつけるだけと簡単になりました。



キーワードに「カーボンナノチューブ」と追加して絞り込み検索をしてみると、1件のみヒットしました。



また、右下の「Your Collection」をクリックすると、本学の蔵書検索画面にリンクしており、所蔵の検索ができます。
 なお、画面を移動したり終了したりする場合には、システム画面上の検索ボタンやログアウトボタンを使用し、ブラウザの戻るボタンや閉じるボタンを使用しないでください。

(学術情報係)

図書館の利用状況

項目 / 年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	
蔵書冊数 (冊)	162,765	169,583	173,046	
和書	100,234	104,793	107,443	
洋書	62,531	64,790	65,603	
うち参考図書	10,952	17,054	11,333	
研究図書	32,594	32,127	33,306	
製本雑誌	38,374	39,385	41,196	
年間受入冊数 (冊)	8,423	6,845	4,095	
和書	5,644	4,701	3,045	
洋書	2,779	2,144	1,050	
蔵書雑誌タイトル数 (種)	3,907	4,201	4,140	
和雑誌	2,373	2,638	2,571	
洋雑誌	1,534	1,563	1,569	
年間受入雑誌タイトル数 (種)	1,247	1,538	1,631	
和雑誌	828	1,266	1,333	
洋雑誌	419	272	298	
入館者数 (人)	142,890	136,147	131,415	
うち学外利用者	1,144	1,462	1,686	
うち特別開館入館者数	37,873	33,423	32,075	
館外貸出冊数 (冊)	30,740	28,998	28,973	
施設利用者数 (人)	3,262	2,475	2,605	
学内複写				
白黒 (枚)	87,358	83,583	46,119	
カラー (枚)	10,909	9,578	5,780	
リーダー	(件)	37	5	0
プリンター	(枚)	288	152	0
受付 (冊)	313	253	170	
図書貸借				
国立大学等	280	231	154	
私立大学	33	22	16	

項目 / 年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
依頼 (冊)	146	176	111
図書貸借			
国立大学等	134	169	102
私立大学	12	7	9
受付 (件)	3,782	3,944	2,747
大学	3,442	3,920	2,711
その他	340	24	36
文献複写			
依頼 (件)	6,386	6,366	4,742
大学	5,871	5,762	4,319
その他	515	604	423
オンライン情報検索 (件)	113	86	76
JOIS	5	0	1
STN	67	57	37
NACSIS	40	27	35
DIALOG	1	2	3
参考質問 (件)	1,518	1,351	1,172
所在	273	338	445
内容別			
事項	197	96	43
利用	1,048	917	684
身分別			
教官	258	198	142
職員	46	65	74
学生	1,108	1,024	912
学外	106	64	44
形式別			
口頭	1,351	1,263	1,118
電話	76	51	30
文書・メール	91	37	24
外国雑誌目次データベース (件)	825	999	635
雑誌検索	801	987	635
論文検索	24	12	0

- | | |
|------------------|--|
| 15. 4.22 | 東海地区国立大学図書館協議会総会 (会場：浜松医科大学)
出席者 附属図書館長、図書課長 |
| 15. 5.2 | 豊橋市図書館協議会 (会場：豊橋市中央図書館)
出席者 附属図書館長 |
| 15. 5.28 | 国立大学附属図書館事務部課長会議 (会場：東京医科歯科大学)
出席者 教務部長、図書課長 |
| 15. 6.25
～ 26 | 国立大学図書館協議会第50回記念総会 (会場：大宮ソニックシティ)
出席者 附属図書館長、教務部長、図書課長 |
| 15. 6.30 | 東海地区大学図書館協議会総会・研究集会 (会場：岐阜県立看護大学)
出席者 図書課長 |
| 15. 7.17
～ 18 | ILLシステム講習会 (会場：国立情報学研究所)
受講者 学術情報係 美野部亜紀 |
| 15. 7.29 | 豊橋市図書館協議会 (会場：豊橋市中央図書館)
出席者 附属図書館長 |
| 15. 7.31
～8.1 | 高等専門学校及び技術科学大学図書館情報シンポジウム (会場：長岡技術科学大学)
参加者 図書課長、学術情報係長 |
| 15. 8.6
～8 | 図書館等職員著作権実務講習会 (会場：東京大学)
受講者 情報サービス係 前田勝典 |

“ΑΛΗΘΕΙΑ”

図書館の入り口の壁に掲げられている銘板のギリシャ文字 “ΑΛΗΘΕΙΑ” (アレーテイア) は、「真理」を意味します。

表紙デザイン

この表紙のデザインは、野澤隆秀氏(本学卒業生・元建設工学系助手)によるものです。

豊橋技術科学大学附属図書館報「ΑΛΗΘΕΙΑ」第26号 平成15年10月1日

■編集・発行 豊橋技術科学大学教務部図書館課

■〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1 TEL. 0532-44-6562

FAX. 0532-44-6566